



第18号にあたって

実りの秋、食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋がやってきました、と言いたところですが、春先からの新型コロナの流行により私たちの生活は一変しました。一人一人に新しい生活様式や働き方の新しいスタイルが求められています。ワクチンや治療法ができるまでの間、私たち日本人に備わっている清潔さと3密回避などへの協力で困難を乗り越えたいものです。自分に合ったストレス解消を行うことも大切です。病気の知識として今回は新型コロナ時代のインフルエンザと破傷風を取りあげました。最終ページには、診療時間、交通アクセス、救急疾患検索サイトのアドレスなどが掲載されていますのでご利用下さい。

病気の知識



新型コロナ時代のインフルエンザ

“受診前に医療機関に電話を！”

- ・インフルエンザは、インフルエンザウイルス感染で発症し、毎年秋～翌年の春に流行が見られます。
- ・今冬は、新型コロナウイルス感染症（新型コロナ）との同時流行を最大限に警戒すべきといわれています。
- ・下表に示すように、症状からはインフルエンザと新型コロナの区別が困難です。そのため、医療機関では、感染対策上、発熱患者さんを別室や別時間に診察することがあるので“**受診前（建物内に入る前）に必ず医療機関に電話**”して下さい。
- ・流行に間に合うように“**早めのインフルエンザワクチン接種**”をお願いします。
- ・インフルエンザは普通の風邪よりも急激に発症し、症状が重いのが特徴です。
- ・インフルエンザに感染すると1～2日の潜伏期間の後、38℃以上の高熱や関節痛などの症状が現れますが、健康な人であれば、症状が3～7日間続いた後、治癒に向かいます



【症状】

- ・発熱、関節痛や筋肉痛、体がだるい、のどの痛み、頭痛、咳、鼻づまり、鼻水 など。新型コロナでは、発熱に加え、味覚障害・嗅覚障害を伴うことがありますが、症状だけでは両者の区別は困難です。

【インフルエンザと新型コロナとの比較】

	インフルエンザ	新型コロナウイルス感染症
症 状	突然の高熱	発熱、味覚障害・嗅覚障害
	(両者の区別は難しい)	
潜伏期間	1～2日	1～14日（平均5.6日）
無症状感染	10% 無症状患者では、ウイルス量は少ない	数%～60% 無症状患者でもウイルス量は多く、感染力が強い
ウイルス排出期間	5-10日（多くは5-6日）	遺伝子は長期間検出するも、感染力があるウイルス排出は10日以内
ウイルス排出のピーク	発病 2、3日後	発病1日前
重症度	多くは軽症～中等症	重症になりうる
致死率	0.1%以下	3～4%
ワクチン	使用可能だが季節毎に有効性は異なる	開発中。現時点では有効なワクチンは存在しない
治 療	あり	軽症例には、確立された治療薬はなく、多くの薬剤が臨床試験中

【診断】

- 診断には臨床症状と共に、インフルエンザウイルスを検出する迅速キットを用います。この際、綿棒を鼻の奥に入れて粘膜をこすするため不快に感じますが、ウイルスの検出率を高めるためです。
- ウイルスに感染してから時間が経っていない場合は、検査結果が陽性にならない場合もあります。
- そのため、初回迅速検査で陰性であっても、発熱などの症状が続きインフルエンザが強く疑われる場合、抗ウイルス薬の投与可能な発病後48時間以内であれば再検査ができるので医療機関に相談して下さい。
- 新型コロナ流行期には、インフルエンザの迅速検査が陰性の場合、新型コロナの検査を勧められる場合があります。また、感染対策上、インフルエンザの迅速検査を行わない医療機関もあります。



【治療】

- 抗インフルエンザウイルス薬には、「タミフル」、「リレンザ」、「イナビル」などがありますが、発病後 48時間以内に使用しないと効果がありません。
- 「タミフル」や「リレンザ」は1日2回内服、もしくは吸入し、5日間の治療期間が必要ですが、「イナビル（吸入薬）」は単回投与で治療は完結します。ただし、新潟市急患診療センターでは、単回投与の経口薬は採用しておりません。
- 単回投与の薬剤でも、5日間服用する薬と比べて症状が早く良くなるわけではないので、安静にして症状がおさまるのを数日間待つ必要があります。
- 「タミフル」の服用と異常行動の関連については、薬の服用の有無、薬の種類と関係ないと厚生省から発表があり、10代の患者への投与が認められています。
- しかし、小児や未成年がインフルエンザにかかった場合、薬に関係なく異常行動がおきる可能性があるため、発熱から少なくとも2日間は家の外に飛び出さないよう玄関や窓を施錠し、見守りが必要です。



通常時間に病院へ

急患センター等へ



★受診する場合は、患者さん、付き添いともマスクを着用して下さい。

- 小児の場合、急患診療センターでは休日明けまでの分しか薬を処方できません。休み明けに医療機関を必ず受診して診察を受けて下さい。
- 他の人に感染させないため、解熱後も学校や仕事は発症後、5日を経過し、かつ解熱後2日（幼児では3日）を経過するまで休む必要があります。診断書や許可証等は近くの医療機関でもらして下さい。

はしょうふう
破傷風

“さびた釘や野外でのケガは要注意！ 命の危険も！”



- 傷口から細菌（破傷風菌）が侵入したのち“けいれん”を起こす感染症で、発症した人のおよそ3人に1人が死に至る恐ろしい病気です。
- 破傷風菌の多くは土の中にいますので、野外でのケガで感染することが多くなります。
- 他にも、さびた釘や古材など空気に触れないような所にあつたもので傷ついたり、動物の口の中に破傷風菌がいることもあるので、動物に咬まれて感染することもあります。
- 傷口から体内に侵入した後、菌がつくる神経毒素（破傷風毒素）によりけいれんをひき起こします。



- 傷口が小さくとも傷の中に菌が入り込むことがあります。
- 誰にでも発症する可能性はありますが、破傷風のワクチンをきちんと受けた子どもの発症例はほとんどありません。
- ヒトからヒトへの感染はありません。
- 潜伏期間は3日から21日とさまざまです。
- 特有な症状がみられますが、その段階は次の4期に分けられます。

第1期：まず、口を開けにくくなり、食べ物を飲み込みにくくなる

第2期：開口障害が強くなり、顔全体がけいれんし、ひきつり笑いといわれる表情になる

第3期：やがて全身の筋肉がけいれんし、とくに呼吸筋がけいれんすると呼吸ができなくなり死に至ることがあり、もっとも危険な時期

第4期：全身性のけいれんは次第に改善していく

【診断】

- ・症状や受傷歴・ワクチン接種歴などからこの病気を推定します。

【治療】

- ・早めの治療がその後の経過を左右するので、破傷風と推定した時点ですぐに治療を開始します。
- ・破傷風の毒素に対して効果のある免疫グロブリンを注射し、傷の処置、抗菌剤、けいれんを抑える薬の投与、呼吸血圧の管理も併せて行います。



【破傷風の予防】

- ・外傷後の破傷風予防については、予防接種歴や外傷の状態からワクチン(破傷風トキソイド)接種の必要性を医師が判断するので受診が大切です。
- ・破傷風は感染によっても免疫を獲得できないため、免疫獲得はワクチンしかありません。
- ・昭和43年以前に生まれた人は、外傷や渡航でワクチンを受けた人を除き破傷風に免疫はありません。
- ・三種混合ワクチンや二種混合ワクチンには破傷風ワクチンが含まれており、ワクチン接種後およそ10年間は破傷風に対する免疫効果が続くため、基本的に外傷時の予防は不要です。



- ・屋外での汚い傷、古釘による傷、動物に咬まれた場合、予防接種歴がない子どもで深い傷を負った場合は、すぐに医療機関(休日では急患センターなど)を受診してください。



- ・破傷風は症状があらわれると病状の悪化が速いので、外傷の3~21日後に次の症状がみられたら、すぐに医療機関を受診してください。
口を開けにくくなる、食べ物を飲み込みにくくなる、舌がもつれる、ひきつり笑い、顔・首・四肢のけいれん

Q & A (質問に答えて)

Q：救急医療電話相談（＃7119、＃8000）について教えてください。

A：新潟県では、夜間の急な病気やけがで、すぐに救急車を呼ぶべきか、医療機関を受診すべきか、判断に迷ったときに、看護師等から受診の必要性や対処方法等についての助言、受診可能な医療機関の案内を受けることができる「救急医療電話相談（＃7119）」を実施しています。15歳未満のお子さんに関する相談は、「小児救急医療電話相談（＃8000）」です。

【相談時間】

毎日午後7時から翌朝午前8時までで、5月の大型連休や年末年始など長期連休中は24時間相談できます。今年の年末年始、2020年12月29日（火）から2021年1月3日（日）は24時間相談できます。

【電話番号】

◆15歳以上

「＃7119」：携帯電話またはプッシュ回線の固定電話

「025-284-7119」：ダイヤル回線の固定電話、IP電話またはPHS

◆小児（15歳未満）

「＃8000」：携帯電話または、プッシュ回線の固定電話

「025-288-2525」：ダイヤル回線の固定電話、IP電話またはPHS

電話料金の負担のみで、相談料金は無料です。

【お願い】

相談の結果、当急患診療センター受診を勧められた場合には、受診前に当センターに電話連絡をお願いします。（電話 025-246-1199）

診療時間



★土曜日の在宅当番医

【整形外科】

午後3時～午後10時
 （当番医は新潟日報土曜日朝刊とホームページ「新潟医療情報ネットの当番医案内」に掲載されます）

【産婦人科】

午後2時～午後6時
 （当番医はホームページ「新潟市産婦人科医会」に掲載されます）

当番医は、当センターにもお問い合わせできます。

診療科目	診療日	診療時間
内科 小児科	平日	午後7時～翌日午前7時 （受付時間：午後7時～翌日午前6時30分）
	土曜	午後2時～翌日午前9時 （受付時間：午後2時～翌日午前9時）
	日曜・祝日	午前9時～翌日午前7時 （受付時間：午前9時～翌日午前6時30分）
整形外科	平日	午後7時～午後10時 （受付時間：午後7時～午後9時30分）
	土曜（★）	午後10時～翌日午前9時 （受付時間：午後10時～翌日午前9時）
	日曜・祝日	午前9時～午後10時 （受付時間：午前9時～午後9時30分）
外科	平日	診察はしていません
	土曜	午後3時～午後10時 （受付時間：午後3時～午後9時30分）
	日曜・祝日	診察はしていません
産婦人科 眼科 耳鼻咽喉科 脳外科	平日	診察はしていません
	土曜	診察はしていません（★産婦人科のみ在宅当番医あり）
	日曜・祝日	午前9時～午後6時 （受付時間：午前9時～午後5時30分）



＜急患診療センターの理念＞

市民と共に

市民に信頼される

救急医療の継続提供をめざします

＜理念の説明＞

- ① 市民の理解と協力、支援により円滑な運営が可能になります
- ② 職員は、質の高い急患診療を提供できるよう努力いたします
- ③ 超高齢社会、医師不足のなか、診療体制の維持継続を行うことが必要です

あとがき

今年は、新型コロナウイルスの流行、世界大恐慌以来の経済不況、オリンピック延期など歴史に残る1年でした。新型コロナウイルスが収束しないままインフルエンザ流行期に突入します。人に頼らず、基本的な感染予防（手洗い、マスク、3密回避）により自分の身は自分で守る覚悟が大切です。

新潟市急患診療センター
 ホームページ
<http://www.niigata-er.org>



新潟市医師会
 救急疾患検索サイト
<http://www.niigata-er.org/search/>



小児救急ハンドブック
 （新潟市）



発行：新潟市急患診療センター

〒950-0914

新潟市中央区紫竹山3丁目3番11号

TEL 025-246-1199